



〇ふりかえり

4 月に着任してから、学校の教育内容や行事を紹介するとともに本校の PR をすることや授業を担当していない私が学生たちに伝えたい事などを記述する目的でこの KOCHO だよりを発行してきました。一区切りとなりましたので、これまでのたよりを少し振り返ってみたいと思います。

私の偏った経験の中からいくつか紹介した内容もありました。本校の学生にとって直接参考にならないようなつぶやきもしてきました。読み流されたものも多いことと思います。単純に出来事の紹介という号もありましたが、基本的には若者たちに伝えたい内容を含ませていたつもりです。

今回はあえて、いくつかその“たねあかし(?)”をしてみたいと思います。たねあかしの前から「分かっていた。」という人がいらっしやっただとしたら非常にうれしいです。

47 号「SUMMER VACATION」：子どもの命を預かる保育士は可能な限り危険な場所・もの・状況などを把握しておく必要がある。また、子ども自身の危険察知能力を養うことも重要です。

71 号「彼岸花」：四季のある日本の自然の素晴らしさに誇りをもち大切にするとともに、毎年同じ営みを続ける植物たちから何かを学んでほしい。(「し続ける力」など)

「他学科等の紹介」号：就職すれば自分の仕事に集中することになりますが、世の中には自分の仕事以外に数えきれない種類のものがあるということを忘れないようにしておきましょう。そのどれにも価値があり必要とされているものであると認識しましょう。

「文理」特集号：文系的な保育士も対応する子どもは文系・理系またはそのほかのどんな分野に興味をもっていかはすぐには分かりません。広いふところをもつことができるようにしましょう。また、IT ビジネス科から情報関係の仕事に就く人も文系分野のふところをもっていると仕事に味が出て深みが増すことでしょう。

96 号「補色」：障害(がい)にはいろいろな種類・度合いなどがあります。どんなところにも(自分にも)存在します。多くのことを学んでおくことは人を傷つけてしまう場面も減らすことができるでしょう。失敗したとしてもフォローができます。

97 号「たより」：国籍や文化の違いを超えて、お互いを尊重し感謝の気持ちをもてる広い心を身につけてほしい。そのことはさまざまな個性のある子どもたちの理解にも役立つことでしょう。

右上に挿入している自画像の意味を紹介します。



3 号
容量不足になっている私
サングラスではありません

44 号
ドローンの機長



56 号
「巨人の星」の花形満
眼が炎!

59 号
ペンだこ(拡大図)



このようにたねあかしを書いていると、何だか知ったかぶりのお説教をしているような気持ちになってきました。これから発行する「たより」では、これまでと同じように伝えたいことを少し隠しながら記述していきたいと思っています。私が伝えたかったことを探ってみただけると幸いです。

自画自賛

祝100号!

多ければいいというものではないと思いますが、まずは目標にしていた100号に今回到達しました。回数だけを目標にしてしまうと内容が似たようなものになっていきそうです。初心に戻ってこれからも細々と続けていこうと思っています。